

令和6年度 事業報告書



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家

目 次

刊行に寄せて	1
国立大洲青少年交流の家 グランドデザイン	2
国立大洲青少年交流の家 組織図・関係者一覧	3
事業運営の概要	5
1 教育事業	
2 研修支援	
3 連携促進	
4 その他の取り組み	
5 今後の課題	
令和7年度実施事業計画一覧	11

刊行に寄せて

近年、国内外で注目されている社会情動的スキル（非認知的スキル）とは、学力テストなどで計測できる認知的スキル以外の、数値化することが難しい心の動きのことです。OECDは、このスキルが、「目標の達成（責任感、自己抑制）」「感情のコントロール（楽観性、ストレス耐性）」「協働性（共感性、協調性）」「開放性（好奇心、創造性）」「他者とのかかわり（社会性、積極性）」「複合的な能力（批判的思考、自己効力感）」の六つの要素で構成されると定義しています。そして、子供の頃の自然体験や社会体験、生活体験などの各種体験は、これらの社会情動的スキル獲得にポジティブな影響を与えるとされ、また、失敗したときや困ったときに原因を考え、工夫して解決したり、乗り越えたりしようとする中で、自分を客観的に見つめる（メタ認知）力のスキルが向上するといったよい影響をもたらすとされています。「VUCA」（不安定、不確実、複雑、曖昧）の時代だからこそ、体験活動の意義を再認識し、機会の充実を図っていくことで、未来を担う子供たちの社会情動的スキル向上に寄与していきたいと考えています。

国立大洲青少年交流の家においては、開所50周年を迎えた令和6年度においても、青少年教育のナショナルセンターとして、青少年及び青少年指導者等を対象とした教育事業をはじめ、学校関係団体等への体験活動の提供や研修支援、青少年教育指導者等の養成、関係機関との連携促進等の取組を進めてきました。

教育事業においては、青少年の体験活動等の重要性の普及啓発事業、社会の要請等に応える体験活動等事業、青少年教育に関するモデル的事業、課題を抱える青少年を支援する体験活動事業、青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業、開所50周年記念事業を企画・実施し、多くの成果を得ることができました。特に、国立三瓶青少年交流の家と協働で取り組んだ特色化事業「地域の実情を踏まえた体験活動事業」及び実践研究事業「教員として必要な資質能力の育成に寄与する教育事業の在り方～「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」の実践研究を通して～」では、令和3年度からの4年間に積み上げてきた研究の成果をそれぞれ報告書（別冊）にまとめることができ、本報告書と併せて、今後の野外活動プログラムの普及や青少年指導者等の資質向上に役立てていただけるものと期待しています。多くの教育関係者、子育ての支援関係者の皆様に御一読いただき、幅広く御活用いただきますようお願いいたします。

次年度は、国立青少年教育振興機構の第4期中期目標の最終年に当たることから、様々な角度から蓄積してきた知見を効果的な事業設計や運営に結び付け、質の高い体験活動を提供し続けることで、青少年の体験活動の機会の充実を図り、ウェルビーイングの向上や、共生社会の実現につなげたいと考えています。

結びに、今年度の事業の実施にあたり、学校教育及び社会教育関係機関・団体、地域の皆様等から多大な御支援・御協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げ、今後とも一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立大洲青少年交流の家

所長 中尾 治司



パーパス（社会的存在価値・社会的意義）

魅力ある体験活動の提供と指導者の資質向上への寄与による 青少年教育の振興と社会の創り手の育成

ミッション（使命・実現のための取組）

仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成

変化の激しい社会で、自ら課題の解決に挑み、仲間と共にやり抜く人間力の育成



国立大洲青少年交流の家は、青少年教育のナショナルセンターとして

- 1 質の高い教育、魅力あふれる体験活動を展開し、健全な青少年を育成します。
地域の豊かな教育資源と施設機能の活用、自然体験・集団宿泊体験等の活動を通じた感動体験
- 2 日常生活でSDGsの取組を実践しようとする意識や意欲を高めます。
豊かな自然や社会資源に触れる機会や場の提供、社会や生活の問題への気づきの創出
- 3 安全点検、衛生管理、防犯対策等を徹底し、安全安心な運営を実現します。
危機管理マニュアルの改善・充実と遵守、研修による職員の危機管理意識及び実践力の向上
- 4 効果的な研修支援の在り方を精査し、施設の特色化・魅力化に努めます。
青少年・青少年教育指導者等の研修目的達成への指導・助言、プログラム提供等の教育的支援
- 5 発災時の災害対応補完拠点の役割を果たすとともに、防災教育を推進します。
国土強靱化基本計画や大洲市地域防災計画等に基づく役割、大洲市防災センター等との連携
- 6 関係市町教委等と連携し、「ふれあいスクール」の効果的な運営に努めます。
不登校児童生徒等の基礎学力の補充、生活習慣の確立支援、社会的自立を促す取組の継続
- 7 「体験の風をおこそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動の運動的な推進に取り組み、体験活動や基本的生活習慣の重要性を普及啓発します。
新型コロナウイルスの影響により減少した体験活動の機会の充実、基本的生活習慣の確立
- 8 ボランティアや青少年教育指導者等の養成・育成を推進します。
学びと活動の循環によるボランティアの育成、指導者や実践者へ学習の場や機会・情報を提供
- 9 多様な関係者との連携・協力を図り、施設の存在価値向上を図ります。
公立の青少年教育施設や教育関係機関・社会教育関係団体・企業等との連携、50周年記念事業
- 10 幅広い利用者の獲得に向け、広報活動を強化し、利用促進に努めます。
SNSの積極活用、交流の家ファンの獲得、本部広報ビジョンに基づいた各種取組の実施

4 質の高い教育をみんなに

3 すべての人に健康と福祉を

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

一人一人が自ら持続可能な社会の担い手として
未来を変える「協働」の実践者に



ビジョン（目指す姿）

誰もが学びと成長を実感できる施設 ここ ーまた大洲に来て、**出会い・挑戦・感動体験**をー

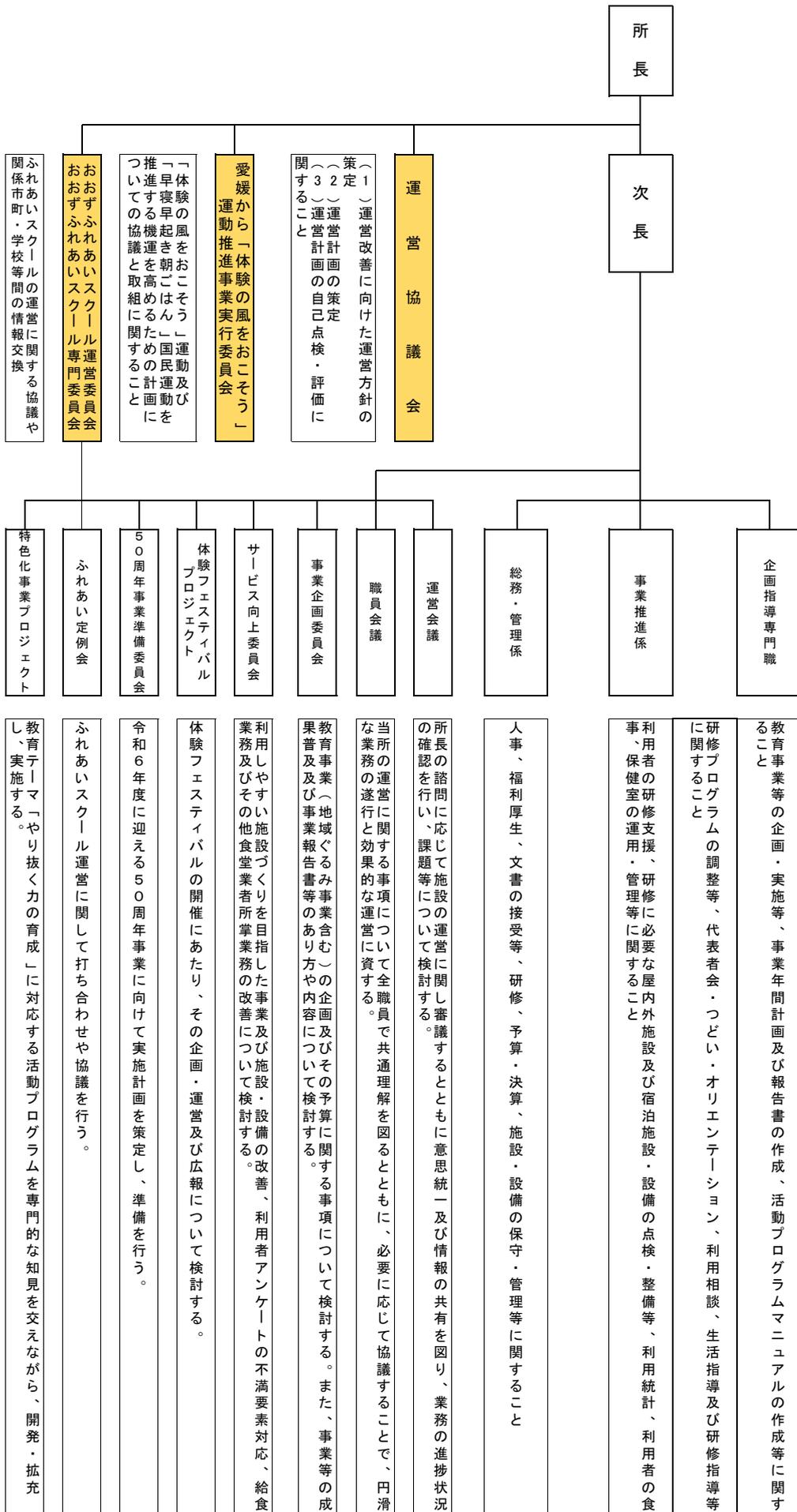
◇「来てよかった」	満足度向上	教育事業	最上位評価	平均85%以上
◇「また来たい」	利用者増	研修支援	最上位評価	平均90%以上（リピート意向）
◇「行ってみたい」	新規獲得	総延利用団体数	年間	2,000団体以上 SNSの活用促進

バリュー（価値・行動基準）

新たな「出会い」と魅力ある「挑戦」、熱い「感動」の創出

O wnership（当事者意識）	考え方×熱意×能力	施設経営への自覚を高め、学び続ける職員
Z est（熱意）		利用者を第一に考えた迅速・誠実・謙虚な対応
U nity（結束）		職員間の信頼・連携・協力による、効率的・効果的な業務推進

令和6年度国立大洲青少年交流の家組織図



運営協議会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	愛媛県教育委員会事務局 社会教育課長	伊賀上 慶樹
2	国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所長	江川 昌克
3	愛媛県PTA連合会 副会長	梶原 玉男
4	株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部 部長	城戸 輝芳
5	松山東雲女子大学 元学長	塩崎 千枝子
6	愛媛ボランティア学習研究会 事務局長	柴崎 あい
7	国立大学法人愛媛大学総務部長	上甲 功治
8	国立大学法人愛媛大学 次世代人材育成拠点 地域未来教育部門兼教職総合センター 准教授	高橋 平徳
9	愛媛県歴史文化博物館 館長	松井 慶介
10	大洲市教育委員会事務局教育部長	村上 司
11	人間牧場主	若松 進一
12	愛媛県小中学校長会副会長 宇和島市立城東中学校長	脇本 俊二

愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員名簿

番号	役 職	氏名
1	愛媛県歴史文化博物館 学芸課長	井上 淳
2	愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 副会長	上岡 教浩
3	(株)ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部長	城戸 輝芳
4	大洲市カヌー協会 理事長	島村 弘幸
5	宇和島山岳会	多田 寛生
6	愛媛県立大洲農業高等学校 校長	永井 伊秀
7	国立大洲青少年交流の家 所長	中尾 治司
8	大洲青年会議所 理事長	西田 典正
9	愛媛県教育委員会事務局社会教育課 担当係長	橋本 泰志
10	愛媛県PTA連合会 副会長	梶原 玉男
11	愛媛県連合婦人会 会長	三好 康子
12	大洲市教育委員会 教育部長	村上 司
13	愛媛新聞社大洲支局 支局長	山下 直人

おおずふれあいスクール専門委員会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	長浜中学校 生徒指導主事	池田 吉輝
2	大洲東中学校 校長(副委員長)	石川 雅之
3	平小小学校 校長(専門委員会委員長)	菊池 智
4	肱東中学校 養護教諭	菊池 朋子
5	久米小学校 養護教諭(副委員長)	佐々木結芽
6	粟津小学校 養護教諭	高岡久美子
7	大洲東中学校 養護教諭	高岡 恵
8	平野小学校 生徒指導主事	樽古 賢三
9	菅田小学校 生徒指導主事	徳田 義実
10	新谷小学校 養護教諭	西宮 舞
11	大洲北中学校 生徒指導主事	二宮 丈治
12	肱川小学校 養護教諭	東 藍華
13	喜多小学校 生徒指導主事	平田 育嗣
14	新谷中学校 養護教諭	松本 笑香
15	大洲南中学校 養護教諭	森本 由美

おおずふれあいスクール運営委員会委員名簿

番号	役 職	氏名
1	大洲東中学校 校長	石川 雅之
2	八幡浜市教育委員会教育長	井上 靖
3	平小小学校 校長	菊池 智
4	大洲市教育委員会教育長	櫛部 昭彦
5	八幡浜市教育委員会 心理療法士・メンタルトレーナー	幸田 裕司
6	八幡浜保健所 難病・母子保健係長	曾我 直世
7	国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職	都合 美帆
8	伊方町教育委員会教育長	中井 雄治
9	国立大洲青少年交流の家 所長	中尾 治司
10	愛媛県立長浜高等学校 校長	中岡 容美
11	愛媛県立大洲高等学校 肱川分校 分校長	中野 亮
12	内子町教育委員会教育長	林 純司
13	帝京第五高等学校 総合学科トライコース主任	藤原 聖也
14	大洲子育てサポート そよ風 チームリーダー	藤原 郁仁

※氏名50音順及び敬称略

※各委員はR7.1.1時点の現職

井上 淳	愛媛県歴史文化博物館	学芸課長
上岡 教浩	愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会	副会長
城戸 輝芳	(株)ケーブルネットワーク西瀬戸	制作・編成部長
島村 弘幸	大洲市カヌー協会	理事長
多田 寛生	宇和島山岳会	
永井 伊秀	愛媛県立大洲農業高等学校	校長
中尾 治司	国立大洲青少年交流の家	所長
西田 典正	大洲青年会議所	理事長
橋本 泰志	愛媛県教育委員会事務局社会教育課	担当係長
梶原 玉男	愛媛県PTA連合会	副会長
三好 康子	愛媛県連合婦人会	会長
村上 司	大洲市教育委員会	教育部長
山下 直人	愛媛新聞社大洲支局	支局長

愛媛県歴史文化博物館 学芸課長
愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会 副会長
(株)ケーブルネットワーク西瀬戸 制作・編成部長
大洲市カヌー協会 理事長
宇和島山岳会
愛媛県立大洲農業高等学校 校長
国立大洲青少年交流の家 所長
大洲青年会議所 理事長
愛媛県教育委員会事務局社会教育課 担当係長
愛媛県PTA連合会 副会長
愛媛県連合婦人会 会長
大洲市教育委員会 教育部長
愛媛新聞社大洲支局 支局長

事業運営の概要

1. 教育事業

令和6年度は第4期中期目標期間の4年目に当たり、新型コロナウイルス感染症により縮小した体験活動をさらに充実させることが求められている。また、令和4年に文部科学大臣から「子供の体験活動推進宣言」が発表され、令和6年度までの3年間について「体験活動推進重点改革3か年」と位置付けられてきた。

文部科学省から定められた「中期目標」及び当機構の「中期計画」や「ビジョン：青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する」を踏まえた上で、当施設のグランドデザインにも示すとおり、国の青少年教育における政策課題や喫緊の青少年の課題に対応した効果的な事業運営に努めた。特に今年度は、当所の開所50周年の年でもあり、記念事業をはじめコロナ禍で中止していた通学合宿も再開するなど様々な事業を実施した。また、令和3年度から取り組んできた実践研究事業及び特色化事業の成果をとりまとめ発信するなど成果の普及啓発にも力を入れて取り組んだ。

○令和6年度実施教育事業一覧

種類	事業名 実施時期	対象	参加者数
青少年の体験活動等の重要性の普及啓発事業	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 親子でアウトドア ①カヌー編 平水版 7月14日(日) 日帰り →荒天のため10月5日(日)に延期 ②カヌー編 ツーリング版 8月4日(日) 日帰り ③防災編 10月27日(日) 日帰り	①②小学3～6年生とその保護者(親子等) ③小学1～6年生とその保護者・	①AM 18組 37名 PM 21組 46名 ②23組 50名 ③11組 25名
	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 体験フェスティバル in 交流の家 10月19日(土) 日帰り	未就学児～大人まで (未就学児は保護者の同伴が必要)	1,539名
社会の要請等に応える体験活動等事業	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 めざせ！サイエンス・マスター 1月26日(日) 日帰り	小学3～6年生	20名
	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 通学合宿～楽しく学ぼう SDGs ～ 2月16日(日)～22日(土) 6泊7日	大洲市立大洲小学校 大洲市立久米小学校 4, 5, 6年生	16名
青少年教育に関するモデル的事业	【実践研究事業】 ①伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 8月20日(火)～25日(日) 5泊6日 ②子どもむかし生活体験村 8月23日(金)～25日(日) 2泊3日	①大学生 ②小学校4～6年生	①19名 ②29名
	【全国高校生体験活動顕彰制度】 ちいぶろ！(地域探究プログラム) ①オリエンテーション合宿 長浜高校 4月25日(木)、5月30日(木)、 6月6日(木) 日帰り・3日 交流の家 7月25日(木)～26日(金) 1泊2日 ②地方ステージ 1月19日(日) 日帰り ③全国ステージ 2月9日(日) 日帰り	長浜高校1年生 ※②地方ステージには昨年度オリエンテーション合宿に参加した2年生1名参加	60名
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業	【生活・自立支援キャンプ】 おおずふれあいスクール 通年	不登校児童・生徒(不登校傾向を含む)及び引きこもりがちな青少年	登録人数7名 通所延べ人数239名 (令和7年2月28日時点)
	【生活・自立支援キャンプ】 サマーキャンプ in 大洲 6月22日(土)～23日(日) 1泊2日	愛媛慈恵会の寮生及び職員	寮生30名 (小学1年生～高校3年生) 職員13名
指導者等養成・研修事業	【青少年教育施設ボランティア養成講座】 はじめてのボランティアセミナー 5月25日(土)～26日(日) 1泊2日	教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年(29歳以下)	15名(高校生7名 大学生8名)
	【法人ボランティア自主企画】 わくわく！感動デイキャンプ ～自然でつながるながる仲間との輪 可能性は無限大！～ 10月6日(日) 日帰り	年長(就学前幼児)、小学1・2年生の児童	参加者23名(年長12名、小学生11名)
その他	【開所50周年記念事業】 みんなでカヌープロジェクト ～あるときカヌーがしたかった！今みんなでやってみよう！～ 9月21日(土)、21日(日) 日帰り・2日間	・集団宿泊活動が中止になるなどカヌー活動ができなかった青少年(小学5年生以上)とその保護者 ・みんなでカヌー活動をして50周年をお祝いしたい方(小学5年生以上)	1日目 57名 2日目 荒天により中止

※各事業の報告書は以下のリンクよりご覧になれます。

交流の家ホームページ イベントページ <https://ozu.niye.go.jp/event/>

○令和6年度実施教育事業の様子（一部抜粋）

・伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村・子どもむかし生活体験村（実践研究事業）

大学生は、前半の3日間でリーダーシップや小学生への接し方、集団作りの技法、伝承文化等について学び、後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当することを通して、リーダーとしての資質を身に付け、活動を通して伝承文化を小学生に伝える事業である。

令和6年度は前年度の反省から、伝承文化を学び伝える側面の強化を図るためにコロナ禍前に利用していた茅葺き民家「土居家」を活用したプログラムを取り入れた。さらには、大洲市内の歴史文化施設を訪れ、昔体験をできるプログラムを多く取り入れた。これらによって、この事業のねらいである「先人の知恵と自然体験を融合した体験活動」を存分に体験することができた。また、大学生も小学生も募集人数を大幅に増やしたが、多くの過年度経験者が運営に携わったことにより、スムーズに事業を進めることができた。

本事業は実践研究事業として実施され、愛媛大学准教授高橋平徳氏の協力を得て、アンケート等の分析を行った。参加した大学生は、教師に必要な能力の素地を養ったり、組織やチーム内でコミュニケーションを取りながら協力する姿勢が身に付いたりしていることが分かり、本事業が教員養成において大変有意義であることがわかり、報告書としてとりまとめて発信した。



・めざせ！サイエンス・マスター（新規事業）

理科教育の重要性が再認識されていく中で、子供たちに科学体験が直接できる場を提供し、自然の不思議さや科学のおもしろさについて実感させると共に、科学技術や生物に対する興味・関心を高めることを目的に、自然環境館を活用し、大洲市自然科学教室に協力いただき実施した。

午前中は、如法寺河原で肱川の岩石を調べて標本作りをし、午後は葉脈のしおり作りを行った後、ちりめんじゃこの中からちりめんモンスター（雑魚）を探して観察した。ちりめん（カタクチイワシの幼魚）の中に希少な魚や甲殻類を発見した子供たちは、その度に歓声を上げていた。八幡浜高等学校自然科学部員や教師を志望する愛媛大学大学院の学生を協力員として各班に付け、学生と子供たちとの交流があったことで、子供たちの体験活動がよりスムーズにできた。事後のアンケートでは参加者全員が最上位評価である「満足」と答えた。



・通学合宿～楽しく学ぼう SDGs ～（復活事業）

令和元年度まで実施していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて中止になっていた通学合宿を、本年度「SDGsを学ぶ」という新しい観点を加え、大洲市立大洲小学校と大洲市立久米小学校の協力を得て、5年ぶりに実施した。本事業では家庭から離れた共同生活の中での生活体験活動を通して、子供たちの自主性や協調性、耐性等の「生きる力」の基盤となる豊かな人間性やコミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図った。また、「SDGs」を中心的なテーマに位置付け、SDGsカレー作りや和紙作りなどSDGsに関わるプログラムに取り組んだ。慣れない生活で、不安そうにする児童も見られたが、概ね共同生活を楽しむとともに、一人ひとりがSDGsについて考え、行動することができた。



・全体を通して

年間を通して教育事業の満足度は88.4%となり、グランドデザインの中で目標値として定めた85パーセントを上回った。各事業においてボランティアが活躍してくれて、子供の成長とともにボランティアの成長にもつなげることができた。特に法人ボランティア自主企画では、ボランティアが主体となって、今まで対象とすることが少なかった幼児や小学校低学年を対象とした事業を行ったところ、定員を大幅に上回る応募があり、評価の高い事業となった。今後、幅広い年齢層に体験活動を届けるために対象の検討を行うとともに、広報力の強化をしつつ、多くの人に充実した体験活動を提供することができるよう魅力のある教育事業を企画運営していきたい。

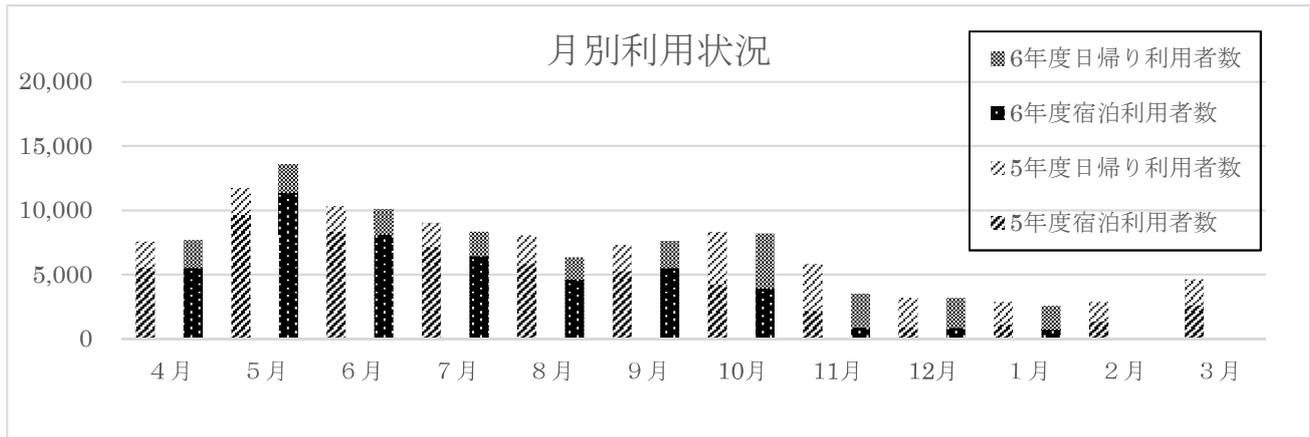
2. 研修支援

(1) 施設の利用状況

利用形態は宿泊型研修と日帰り型研修がある。令和6年度の宿泊利用者数は、昨年度と比較し約2%減少している。要因として、団体担当者の負担軽減のために利用形態が変更または中止となったことや、団体内における感染症の拡大、天候の悪化によるキャンセル等が挙げられる。令和6年度の日帰り利用者数は昨年度と同程度になる見込みである。

また、学校の集団宿泊研修について、昨年度と比較して5月の利用者数が増えている。これは、令和6年度の利用から新型コロナウイルス感染症拡大防止のための配室基準を緩和し、宿泊室を通常定員に戻した状態で調整した結果、利用希望が多い月に集中したことが影響している。

なお、月別の利用状況は次のとおりである。



(令和6年度は1月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年度宿泊	5,544	9,616	8,317	7,121	5,814	5,278	4,217	2,170	879	1,116	1,347	2,619	54,038
6年度宿泊	5,493	11,389	8,077	6,429	4,608	5,498	3,905	860	840	705			47,804
5年度日帰り	2,014	2,085	1,995	1,910	2,216	2,011	4,085	3,622	2,301	1,735	1,523	2,016	27,513
6年度日帰り	2,178	2,158	2,003	1,898	1,737	2,097	4,275	2,587	2,307	1,829			23,069

(2) 利用団体の研修に対する指導・助言の充実

- ① 利用団体の研修目的に応じ、効果的な研修を実施できるよう、事前相談において、教育的なねらいを踏まえた指導・助言を行うとともに、利用団体からのアンケート結果を基に効果的な研修が実施できるよう改善に努めた。
- ② 学校が行う集団宿泊研修について、「集団宿泊研修担当者研修会」を4～7月にかけて4回開催し、104名の参加があった。研修会では、施設での研修や生活について伝える機会になっただけでなく、利用相談の場を設け、活動の「目的」や「ねらい」に沿った計画の支援ができた。
- ③ 利用団体の研修目的達成のため、職員や研修指導員による直接指導に努めた。特に、メインプログラムであるカヌー活動においては、年間約170回の直接指導を行い約12,000名の参加者へ指導を行った。指導に当たっては、令和3年度から取り組んできた「地域の実情を踏まえた特色ある体験活動事業（特色化事業）」の成果を活かした指導を行うとともに、国立三瓶青少年交流の家と連携して特色化事業報告書を取りまとめて発信した。
- ④ 利用団体と安全対策や危険回避に関する事項及び利用者の健康状態や天候等の情報交換を密にし、利用者の安心と安全に万全を期した。

(3) 研修利用の促進

閑散期（11月～2月）を中心として、職員によるブース出展や出前講座を行うことで利用促進を図った。

3. 連携促進

(1) 青少年教育施設・団体との連携促進

愛媛県を中心とした青少年の健全育成に携わる団体のネットワーク構築のため、当交流の家にて開催される「地域教育実践交流集会」に協力し、青少年をめぐる諸課題への円滑な対応を推進した。



また、まつやまNPOサポートセンター及び西条市市民活動支援センターと協力して、子どもゆめ基金助成金講座を実施することで、子どもの体験活動や読書活動を実施する団体との連携を図った。

その他、引き続き中四国青少年教育施設協議会への参画を通じて連携を図った。

(2) 学校との連携促進

①伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村における連携

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村において、愛媛大学、松山東雲女子大学、広島国際大学と連携し、単位の取得や授業時数にカウントできる事業として位置付けるとともに広報も連携して行い、学生の参加促進を図った。

②大学カヌー実習

大学のカヌー実習のプログラム企画や指導を通じて連携を図った。肱川の雄大な自然の中で、カヌーツーリングを実施するなど、充実した研修を行うことができた。

- ・広島国際大学 日程 11月2日(土)～4日(月) 参加者29名
- ・松山大学 日程 9月9日(月)～10日(火) 参加者8人
- ・福山平成大学 日程 9月2日(月)～4日(水) 参加者84人

③インターンシップ・社会教育実習生の受け入れ

大学生が施設における実際の業務に接することにより、学習意欲の喚起、高い職業意識の育成に寄与することを目的としてインターンシップを、また、社会教育に関わる専門知識や技術の向上を目的として社会教育実習を受け入れた(8月～9月)。それぞれの業務に関する講義や教育事業等への参加を通して、有意義な学びとなった。



- ・参加人数 【インターンシップ】愛媛大学 1名
【社会教育実習】広島国際大学 4名

(3) 愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業

①実行委員会の構成(順不同)

うわじまアウトドアスポーツクラブ宇和島山岳会、一般社団法人大洲青年会議所、愛媛県歴史文化博物館、愛媛県PTA連合会、大洲市教育委員会、株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸、大洲市カヌー協会、愛媛県立大洲農業高等学校、愛媛県教育委員会事務局社会教育課、愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会、愛媛県連合婦人会、愛媛新聞社大洲支局、国立大洲青少年交流の家

②標準的な取組

「親子でアウトドア(カヌー編)」と「体験フェスティバルin交流の家」の実施や以下の地域事業に体験活動ブースを出展し、体験活動の普及・啓発や「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進した。

- ・大洲まつり実行委員会主催「大洲まつり」への参加
- ・大洲市教育委員会主催「科学体験フェスティバルin大洲」への協力
- ・「えひめ生涯学習“夢”まつり」への参加
- ・「愛媛大学学生祭」への参加
- ・「くろしお祭り2024 in とろむ」への参加



③発展的・先駆的な取組

以下の教育事業等を行い、地域や企業等と連携して、体験活動の拡充や子どもゆめ基金助成金の活用を促進した。

- ・「親子でアウトドア（防災編）」の実施
- ・「通学合宿～楽しく学ぼうSDGs～」の実施
- ・「子どもゆめ基金助成金講座」の実施
- ・「めざせ！サイエンス・マスター」の実施



4. その他の取組

(1) 50周年記念事業

①開所 50周年記念式典・祝賀会

記念式典には約 150 名、祝賀会は約 100 名の方にご出席いただいた。大洲臥龍太鼓保存会によるオープニングアトラクションから始まり、その後、あべ俊子文部科学大臣、長谷川淳二代議士、中村時広愛媛県知事、二宮隆久大洲市長によるご祝辞をいただいた。また、青少年代表メッセージとして元法人ボランティア糸野紗依さんからは大洲で体験してきた思いをメッセージに載せて感謝の言葉をいただいた。そして、最後は愛媛県なわとび協会による演舞により会場を盛り上げた。祝賀会では石井智恵代議士の挨拶から始まり、西田洋一県議会議員による乾杯挨拶、その後、交流の家職員 OB による懐かしい話題も飛び交い、終始話題の絶えない時間となった。最後には、岡田史朗県議会議員による万歳三唱により祝賀会を盛大に締めくくることができた。



(2) 開所 50周年に関連する取組

①開所 50周年記念懸垂幕・横断幕の設置

国立大洲青少年交流の家開所 50周年を多くの方に知ってもらうために6月～11月にかけて、大洲市役所への懸垂幕の設置を行った。また、施設においても横断幕を設置し、利用者に向けて50周年のPRを行った。



②クラウドファンディング（寄附支援）の実施

開所 50周年を契機とする国立大洲青少年交流の家の記念事業の実施や施設の維持管理等を目的に寄附金の募集を行った。総額 426 万円のご寄附をいただいた。（2月末現在）

③みんなでカヌープロジェクト（開所 50周年記念事業）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により集団宿泊活動が中止になるなど、国立大洲青少年交流の家のメインプログラムであるカヌー活動ができなかった青少年を招待してカヌー活動の機会を提供し、開所 50周年をみんなでお祝いするためのカヌー事業を実施した。

当日は、集団宿泊活動が中止のためにカヌーが出来なかった方 19 名を招待した。また、50周年を祝うために県外からもご参加いただいた。荒天のために1日のみの実施だったが楽しんで活動ができた。

<実施日・参加者数>

9月21日（土）平水版 57人

9月22日（日）ツーリング版 荒天のため中止



④本館玄関ガラスのイラスト張り替え

大洲高等学校美術部のみなさん、大洲農業高等学校美術部のみなさんにご協力いただき、本館玄関ガラスのイラスト張り替えを行った。大洲の四季をテーマに、大洲らしい明るい雰囲気玄関の様変わりした。

張り替えにあたっては、公益財団法人榭山教育振興会様にご協賛いただいた。



⑤50周年記念誌・記念品（大洲和紙 和綴じノート）製作

記念誌は、開所当時の資料を参考に開所40年から10年間の軌跡を中心にまとめ、制作した。また、記念品は、内子町の「ゆるやか文庫」さんのご指導のもと、職員で記念品の一部を制作した。



⑥その他

開所50周年記念式典前日から当日にかけて、芝生広場にカヌー文字による「祝 OZU50」を設置し、祝賀の気運を高めた。



(3) 愛リバー・サポーター制度を活用したカヌー研修場の清掃活動

毎年1万人以上が利用しているカヌープログラムは、当施設のメインプログラムとして多くの人に親しまれている。より多くの方が利用するカヌー研修センターの施設とカヌー活動を実施している河川場において清掃活動を実施することで、利用しやすい環境を整え、安全面の向上や親しみやすい場所になることを目指した。

愛リバー・サポーター制度の団体登録をして、粗大ゴミや不燃物、可燃物等の収集、除草を今年度2回行った。その内1回は大学カヌー実習において大学生と共に実施し、大学生の環境への意識の向上も図った。



(4) 利用者にとって安心安全な施設を目指して～50周年を迎えて～

当施設のグランドデザインにも掲げているように、利用者にとって安心安全で利用しやすい施設づくりを推進していくことは、重要な責務である。そのため、当施設では職員による安全点検、衛生管理、消防・避難誘導訓練、安全管理・防犯研修等を定期的に行っている。

当施設は令和6年度に50周年を迎え、今までの取組の成果や課題を生かしつつ、地域や関係団体の協力も得ながら、今後も利用者の目線に立って、利用者にとって安心安全な施設づくりに努めていきたい。



5. 今後の課題

(1) 教育事業

- ・ 各事業における効果的効率的な運営及び成果の発信・普及啓発
- ・ 幅広い年齢層に魅力ある体験活動を届けるための対象の検討及び質の充実

(2) 研修支援

- ・ 安全安心な教育環境の充実と利用者にとって効果的で質の高いプログラムの提供
- ・ ICTの活用を含めた利用者の増加に向けた取組と広報
- ・ 教育事業と連動したプログラムの開発・拡充等

(3) 連携協力・地域ぐるみ

- ・ 多様なネットワークの構築と関連施設との連携及び効果的な普及啓発活動

令和7年度 国立大洲青少年交流の家 実施予定事業一覧

種類	事業名	期間	対象	募集人数
青少年の体験活動等の普及啓発性事業	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 親子でアウトドア	①カヌー編（平水版・ツーリング版） 9月13日（土）～14日（日）1泊2日 ②カヌー編（平水版） 9月28日（日）、10月4日（土） ③防災編 10月26日（日）	①②小学3～6年生とその保護者 ③小学1～6年生とその保護者	各回25組程度
	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 体験フェスティバルin交流の家	10月18日（土）	大洲市近隣の青少年・一般	2000名程度
社会の要請等に応える体験活動等事業	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 通学合宿～楽しく学ぼうSDGs～	2月23日（月）～28日（土）	小学4～6年生	30名程度
	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 めざせ！サイエンス・マスター	12月21日（日）	小学4～6年生	30名程度
青少年教育に関するモデル的事業	【愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業】 伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 （子どもむかし生活体験村）	①伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村 8月23日（土）～28日（木）5泊6日 ②子どもむかし生活体験村 8月26日（火）～28日（木）2泊3日	①大学生 ②小学4～6年生	①20名程度 ②30名程度
	【全国高校生体験活動顕彰制度】 地域探究プログラム	4月～2月	高等学校生徒	
課題を抱える体験青少年を支援する事業	おおずふれあいスクール	通年（開校中の月・火・木・金曜日）	不登校児童・生徒（不登校傾向も含む）及び引きこもりがちな青少年	15名程度
	【生活・自立支援キャンプ】 サマーキャンプ in 大洲	7月31日（木）～8月1日（金）1泊2日	愛媛県内の児童養護施設に入所の園生	50名程度
指導者等養成事業	青少年教育施設 ボランティア養成講座	6月7日（土）～8日（日）1泊2日	ボランティアに興味・関心のある高校生以上の青年	30名程度
	法人ボランティア自主企画事業	未定 ※今後、法人ボランティアが主体となり企画	未定	未定
その他	地域連携 （県内イベントへのブース出展等）	通年		
	集団宿泊研修担当者研修会	①4月19日（土） ②5月10日（土） ③6月1日（日） ④7月26日（土）	小学校・中学校・高等学校教員	各回30名程度
	大学カヌー実習	8月～9月	大学生および大学職員	各大学50名程度

※ 日程や内容等を変更することがあります。各事業内容等につきましては、国立大洲青少年交流の家HPでご確認ください。



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086 番地

TEL (0893) 24-5175 FAX (0893) 24-2909

URL: <https://ozu.niye.go.jp/>

e-mail: ozuzippy@niye.go.jp

令和7年3月 発行



体験の風を
おこそう

